

第一共和政

1. 九月革命の成功
2. 69年憲法とセラノーノ摂政時代
3. 第一インターナショナルの非合法化
4. 最後のカルリスタ蜂起
5. 奴隷制問題
6. 第一共和政の成立
7. カントナリスタ蜂起
8. 第一共和政の崩壊

1. 九月革命の成功

○1868年9月のクーデタ宣言、「名誉革命」の成功。

-プリム、セラーノらによる臨時政府の設置

-10月25日、「国民への声明」の発表

※基本的人権の保障(宗教の自由を含む)

※男子普通選挙の導入

-反政府の「連邦共和党」の結成——徴兵制、消費税の廃止を要求

○1869年1月、憲法制定議会議員選出のための選挙実施

○1869年2月、憲法制定議会の開催。

○1868年10月～、キューバでの「十年戦争」が始まる。

2. 1869年憲法とセラノーノ摂政時代

○1869年憲法の採択

- 宗教の自由の問題
- 「民主的王政」

○新国王の決定

- アオスタ公爵アマデオ

○セラノーノ摂政(1869年6月～1870年12月)

- 連邦派による徴兵制反対運動
- 「連邦共和国万歳！」の叫び
- 深刻な植民地問題——キューバの奴隷制

3. 第一インターナショナルの非合法化

○1871年1月～、アマデオ1世の治世

○第一インターナショナルの扱いをめぐって

-1864年、ロンドンで結成

-マルクス派とバクーニン派の対立

-1871年3月～5月、パリ・コミューン

-非合法化をめぐる論争

4. 最後のカルリスタ蜂起

○カルリスタ党派

※「宗教、スペイン、地方特別法(フエロス)」のスローガン

○1871年12月～1876年、北部を中心に反乱を継続。

○1872年8月の議会選挙

5. 奴隷制問題

○アンティル諸島の奴隷制

○1872年、プエルト・リコの奴隷制廃止法案提出の動き

→奴隷制擁護論者の総結集

「悪しき政策」、「反愛国的政策」であると非難

「国民同盟」の結成

○キューバ十年戦争の続行——1878年のサンホン協定まで。

※この協定でスペイン政府は、キューバに自治権と本国議会への代表権を与えるとともに、奴隷解放に踏み切り、漸次的なかたちで八六年までに奴隷制は廃止された。

6. 第一共和政の成立

○1873年2月10日、アマデオの退位

○2月11日、上下両院の合同議会は共和政樹立を宣言。

※「共和政」の政体についての合意はなし。

○1873年2月11日～6月11日、フィゲールス大統領。

-アンダルシーアでの農民運動

-「スペイン連邦共和国内のカタルーニャ国」の宣言

○1873年5月、憲法制定議会選挙

○1873年6月、「連邦共和政」を宣言

-ピ・イ・マルガイが大統領となる(6月11日～7月18日)

○7月17日、新憲法草案の提出

※一七の州からなるスペイン

7. カントナリスタ蜂起

○非妥協的連邦派と第一インターナショナル活動家

○自治区(カントン)設立の試み

○独自のカントナリスタ運動

-バレンシア、アリカンテ、ムルシア、アンダルシーア

-アルコイ市

-バレンシアやカディスの港町

-カルタヘーナの港町——海兵隊の支持

8. 第一共和政の崩壊

○サルメロンが大統領になる(7月18日～9月7日)

→カントナリスタの鎮圧

○カステラールが大統領になる(9月7日～74年1月3日)

-「秩序、権威、統治」

-憲法保障の停止

-インターナショナル活動家の逮捕

※「統一的共和政」

○1874年1月2日、議会の再開

-カステラールの不信任案の可決

-パビア将軍による議会閉鎖

○セラノ将軍が大統領となる

-「69年憲法」体制へ戻ることをめざす。 ※「権威的共和政」

○1874年12月、マルティネス・カンポス将軍のクーデタ

→イサベルの息子アルフォンソの「王政復古」